

3 形態意匠の基準及び解説

(1) 建築物 □ 本編 53 ～ 177 ページ

① 配置、低層階

景観計画における形態意匠の基準	
快適な歩行者空間を演出するため、オープンスペースの確保に努め、壁面デザインを工夫する。	全地区共通
（全地区共通事項に加え、）河岸緑地に接する場所では、空地を河岸緑地と一体感を持たせるように整備するとともに、敷地内に河岸や河岸緑地に直接アクセスできるように歩行者通路やピロティなどを設けるなどの工夫をする。	⑦リバーフロント地区

■解説

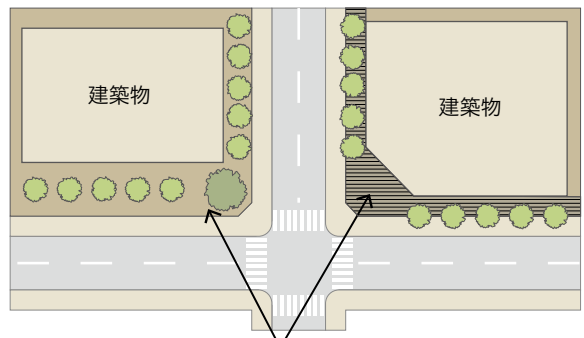
【オープンスペースの確保及び壁面デザインの工夫】

建築物の外壁をセットバックすることなどにより、敷地の一部にオープンスペースを確保し、歩行者が歩きやすく、ゆとりと潤いのある景観を形成します。

また、建築物の壁面の位置をできる限りそろえるなど、街並みの連続性への配慮も必要です。

低層階は、多くの人が目にする部分であるため、ヒューマンスケールに配慮し、圧迫感を軽減するとともに、あたたかみや親しみのある自然素材等を用いるなど、洗練された壁面のデザインにより、各地区の雰囲気大切に景観を形成します。

オープンスペースの確保

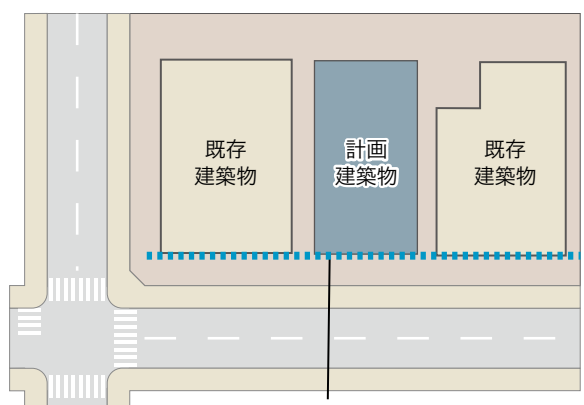


オープンスペースの確保により、
快適な歩行者空間を創出



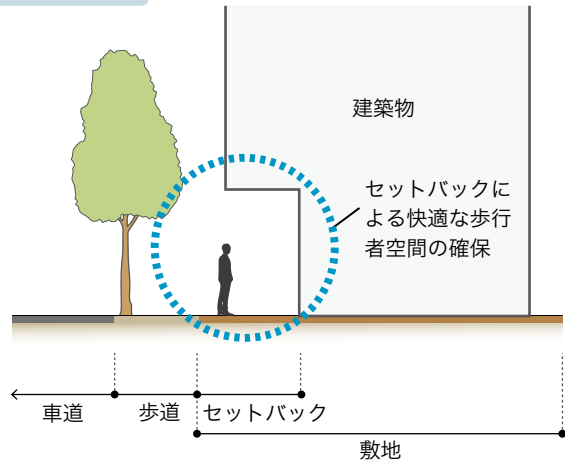
公開空地の使い方の例

壁面の位置の統一



隣接する既存建築物の壁面の位置を合わせる
ことで、整った街並みを創出

セットバック



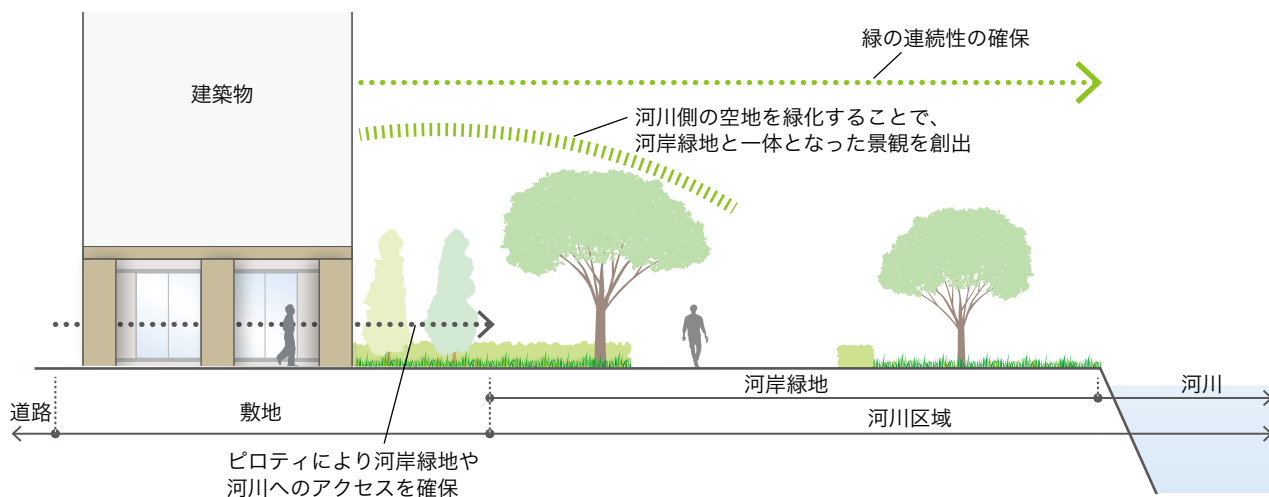
セットバックに
よる快適な歩行
者空間の確保

【河岸緑地に接する場所での工夫】

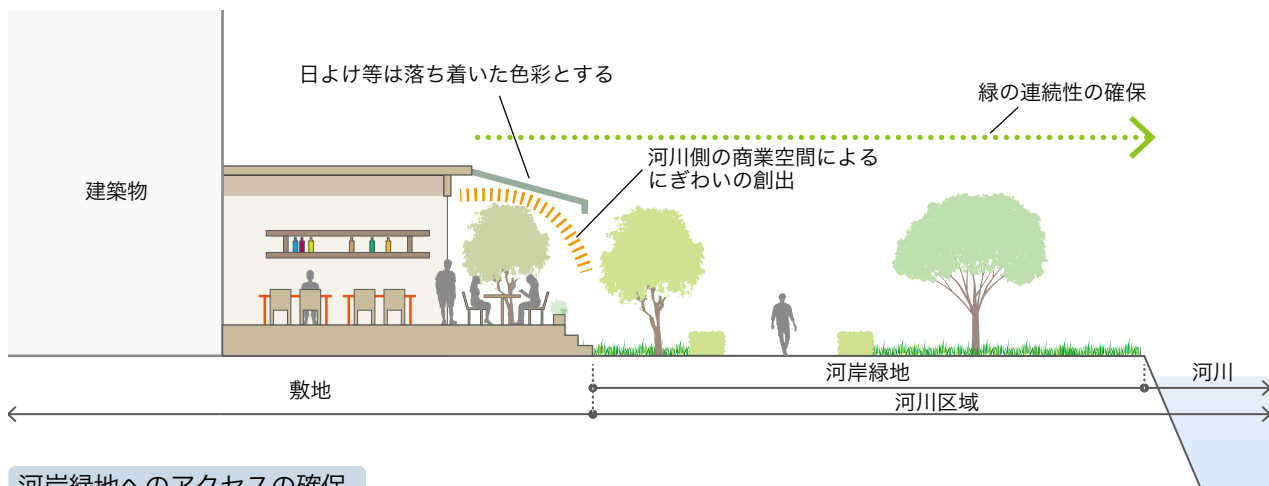
本市では、水辺は散策や休息、スポーツ・レクリエーションなどの場として日常的によく利用されています。また、オープンカフェなど居心地の良い空間がつけられ、人々の日常の中でも河川は身近なものとなっており、河岸緑地の整備と相まって、本市の代表的な景観を形成しています。

このような水辺の使われ方や景観に配慮し、河岸緑地に面する敷地では、河岸緑地との一体感やつながりを持たせるよう、建築物のデザインを工夫し、空地を利用して河川空間と連続した美しい景観を形成します。

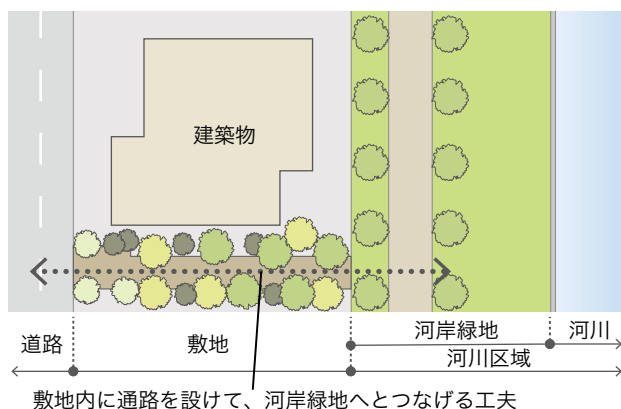
河岸緑地と一体となった緑化のイメージ



河岸緑地と一体となった緑化とにぎわい空間づくりのイメージ



河岸緑地へのアクセスの確保



河岸緑地と商業空間によるにぎわいの創出の例

② 敷地内緑化

景観計画における形態意匠の基準

敷地内緑化をはじめ、屋上や壁面の緑化に努める。

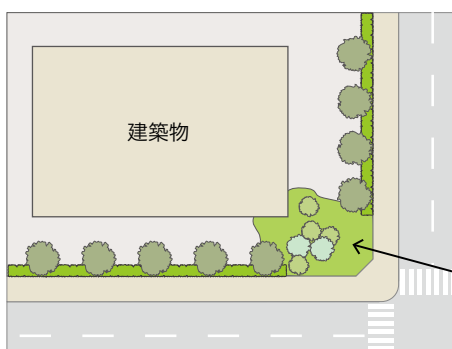
全地区共通

■ 解説

緑は、人々に潤いや安らぎを与え、景観上、非常に重要な要素となっており、さらに温暖化防止への効果も期待されています。可能な範囲で、敷地内、壁面、屋上の緑化を行い、緑豊かで居心地の良い景観づくりを行います。

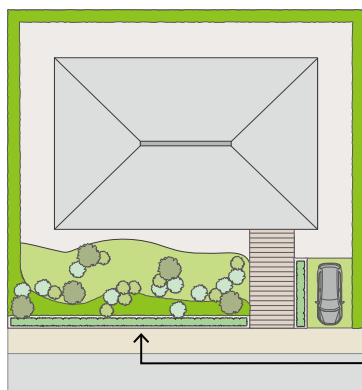
敷地内緑化

＜市街地（マンションや業務ビルなど）＞



敷地内緑化の例

＜戸建て住宅、住宅団地など＞

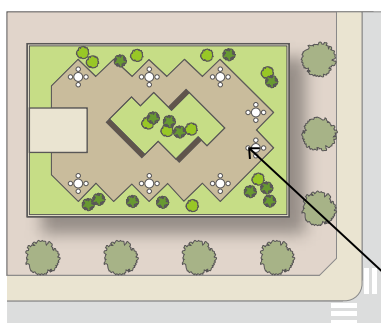


敷地内の緑化の例



敷地内の緑化の例

屋上緑化



屋上緑化の例

可能な範囲で、屋上緑化を進め、憩いの場として美しい景観を創出

壁面緑化



壁面の緑化により、潤いのある快適な歩行者空間を演出



壁面緑化の例

③ 駐車場、駐輪場、ゴミ置き場等

景観計画における形態意匠の基準

できるだけ通りから見えない位置に設置するとともに、目隠しや緑化などにより修景する。また、舗装面は周辺景観との調和を図る。

全地区共通

■解説

【駐車場・駐輪場の景観配慮】

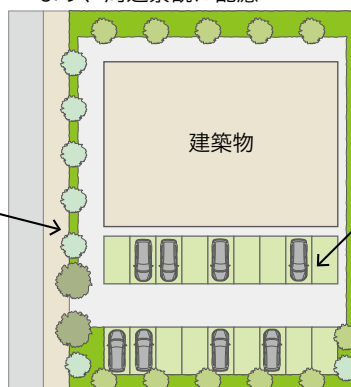
むき出しの駐車場や駐輪場は、景観を阻害し、周辺の街並みの連続性を分断してしまうおそれがあります。そのため、建築物に附属する駐車場や駐輪場では、道路から見えない位置への設置を検討します。また、道路から見える位置に設置する場合は、周辺の街並みの連続性を保つような植栽や目隠し（自然素材の塀など）、路面の工夫などにより、周辺景観との調和に配慮します。

建築物に附属する駐車場の場合



中高木を使った駐車場の緑化の例

駐車場の周囲や路面の緑化により、周辺景観に配慮



グラスパーキングの例

自走式駐車場の場合

壁面を緑化することで、周辺景観に配慮



アクセントとして緑化した例



全面を緑化した例

駐輪場の景観配慮

屋外から見えにくい場所への設置、緑化や目隠しなどにより、周辺景観に配慮



建築物内に駐輪場を設ける例



駐輪場の緑化の例



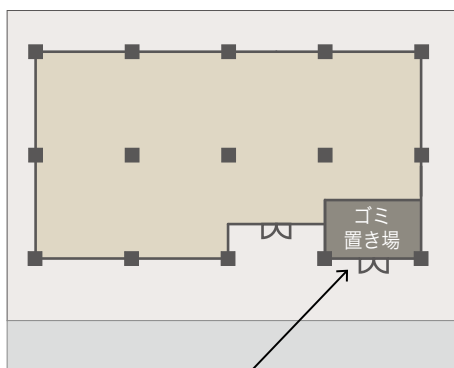
駐輪場をルーバーで目隠ししている例

【ゴミ置き場の景観配慮】

ゴミ置き場のゴミが目立つと、地域の景観を阻害します。そのため、屋内や屋外から見えにくい場所への設置等の工夫をします。

また、共同住宅等の建築物において、ゴミを収集するためにゴミ置き場を道路に面して設けなくてはならない場合は、扉や目隠し等の設置や、壁面デザインを合わせて建築物と一体化させる等の工夫が必要です。

建築物内にゴミ置き場を設置する例



ゴミ置き場を建築物内に設けることも景観上有効

建築物内にゴミ置き場を設けることで、周辺景観に配慮



屋内にゴミ置き場を設けた例

ゴミ置き場を建築物の外壁面と合わせる例

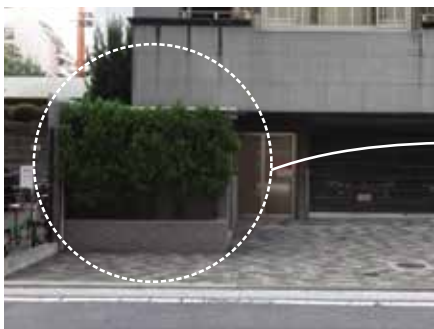
屋外でも、周辺の材質と合わせたり、扉を設けることで、周辺景観に配慮



建築物の外壁とデザインを合わせた例

ゴミ置き場に緑化をした例

ゴミ置き場に緑化を行うことで、周辺景観に配慮



ゴミ置き場に緑化を施した例

④ 塀、柵

景観計画における形態意匠の基準

周辺景観との調和を図る。

全地区共通

■解説

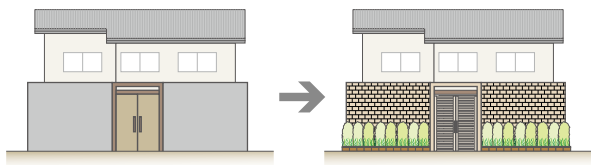
塀や柵は、街並みに表情を与える景観要素です。無機質な塀を避け、自然素材による塀や柵、生け垣等にすることで、街並みに潤いを与え、居心地の良い雰囲気を演出します。

都心部で防犯性の確保のため高い塀等が必要な場合、周辺景観との調和を図るとともに、遮蔽感や圧迫感を与えないよう工夫が必要です。

高い塀、柵を建設する場合

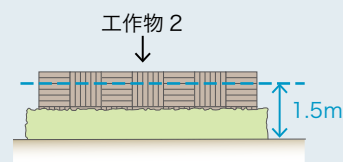
高い塀は、無機質な景観となるほか、通りを歩く人に遮蔽感や圧迫感を与える。

高い塀を設置する場合は、塀の素材や塗装の色、門のデザイン、緑化などの工夫により、圧迫感を軽減



塀の素材を工夫し、緑化した例

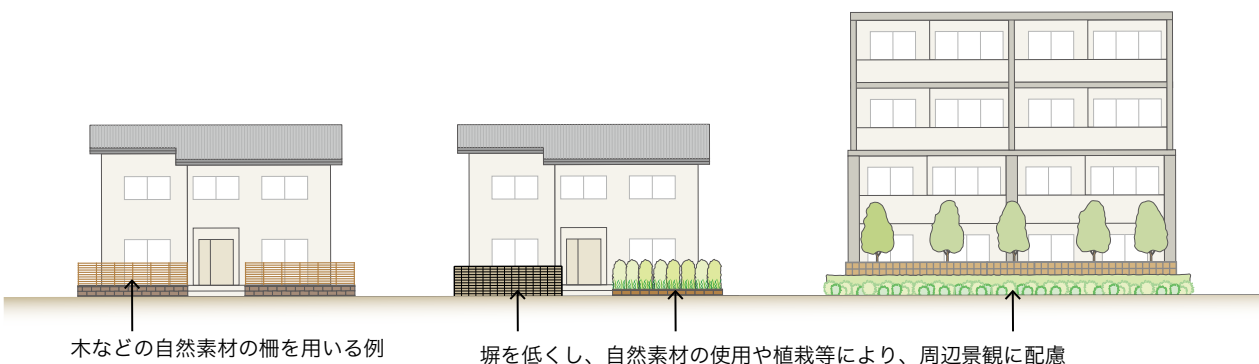
高さ1.5mを超える塀、柵は工作物2に該当するため、単体で建設する場合も届出対象となる場合があります（届出対象行為についてはP10～11参照）。単体の塀、柵についても、本ページの解説を参考にして、塀や柵の素材を工夫し、植栽等により周辺景観への配慮が必要です。



高い柵の前に緑化した例

塀、柵の高さを低くし、緑化する場合

塀、柵の高さを低くし、自然素材を使用した塀や柵、道路沿道への生け垣や花壇の設置等により、心地よい景観を創出



木などの自然素材の柵を用いる例

塀を低くし、自然素材の使用や植栽等により、周辺景観に配慮

生け垣の例



戸建て住宅



戸建て住宅



マンション

⑤ 外観

景観計画における形態意匠の基準

視点場からの見え方に十分配慮した配置、形態、意匠とし、周辺の街並みとの調和を図る。

①～⑬ 景観計画重点地区

その地域の景観特性に応じて、周辺の街並みとの調和を図る。

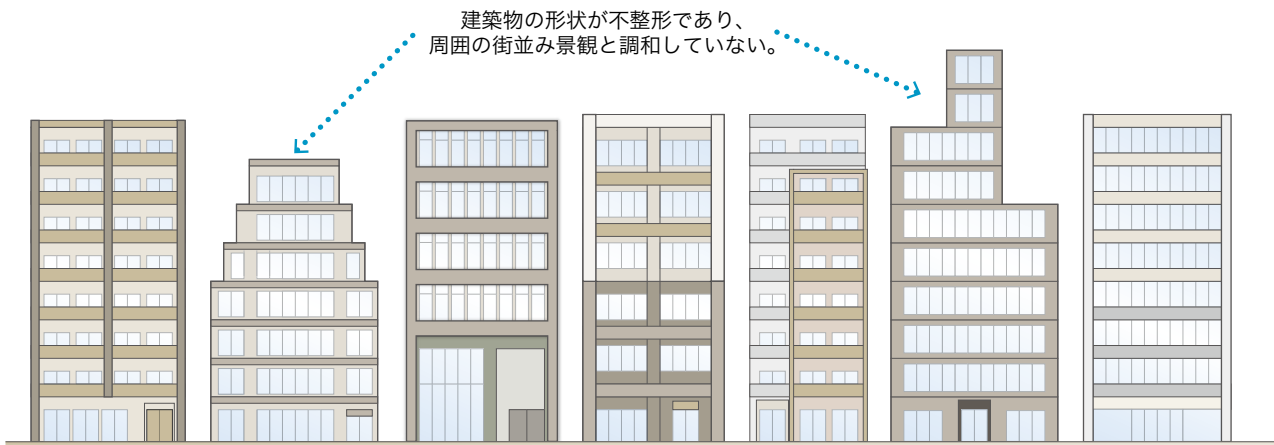
⑭ 一般区域

■ 解説

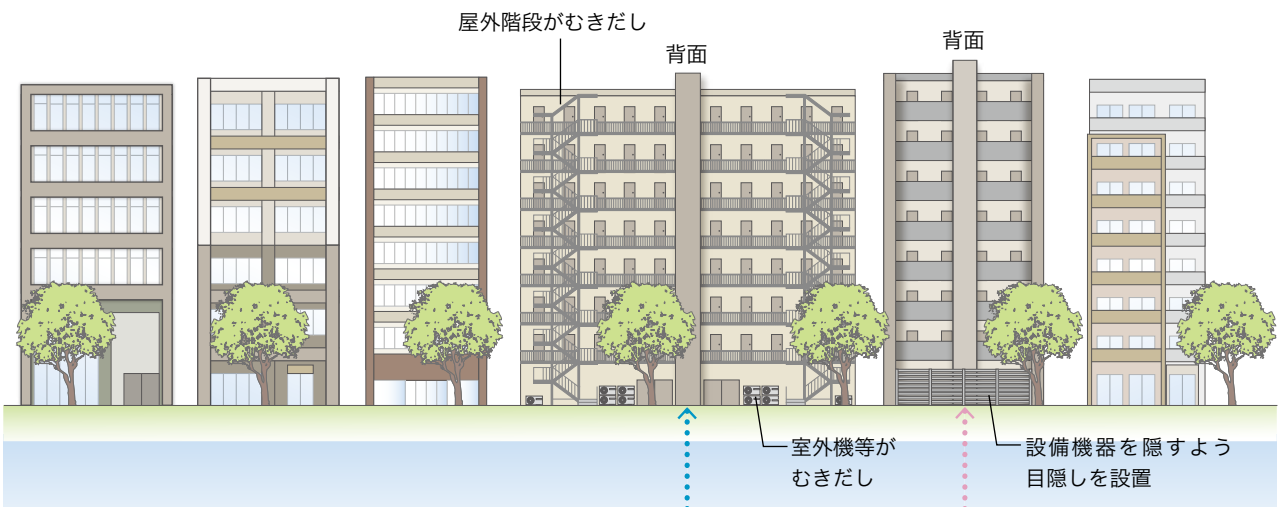
【中高層建築物の景観配慮】

中高層建築物では、街並み景観の調和を図るよう、建築物のスカイラインや形状に配慮が必要です。
また、視点場側にファサード（建築物の正面）を向けるようにするとともに、視点場側が背面となってしまう場合でも、デザインの工夫により周辺景観との調和に配慮します。

街並みの調和



ファサードの向き



建築物のファサードが視点場側に向いておらず、屋外階段や室外機等がむきだして、周辺景観と調和していない。

視点場側に建築物のファサードが向いていなくても、デザインを工夫することで、街並み景観との調和が図られる場合もある。

整った街並みの例

大阪市の御堂筋では、建築物の軒線や形状、壁面の位置がきれいに整っており、美しい街並み景観が形成されています。



軒線や形状が整った街並みの例

建築物の廊下側がデザインされた例

一般的に共同住宅の廊下側は、景観上の配慮や工夫がされず、殺風景な外観となる場合が多く見られますが、広島県営舟入住宅 3 号館は、天満川に面した開放廊下の手すり壁部分が表情豊かなデザインとなっており、さらに、1 階駐輪場の屋根を緑化するなど、景観と環境に配慮した建築物となっています。



広島県提供

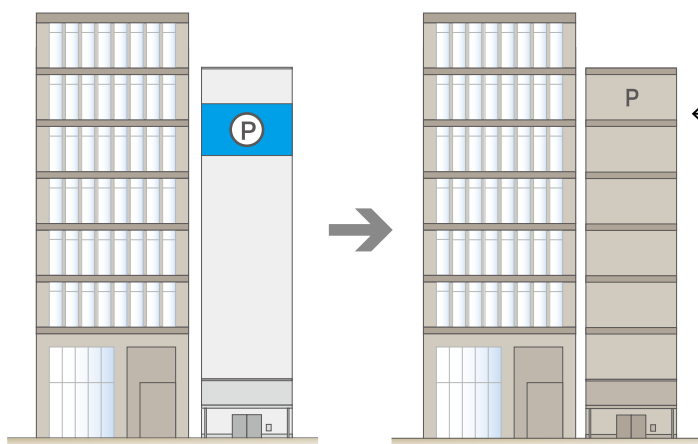


広島県提供

広島県営舟入住宅 3 号館の廊下側のデザイン

【タワー型の立体駐車場の景観配慮】

タワー型の立体駐車場は、単調な建築物であることが多く、無機質となりがちです。そのため、壁面分節化やデザインの工夫、壁面緑化等により、周辺景観との調和に配慮します。



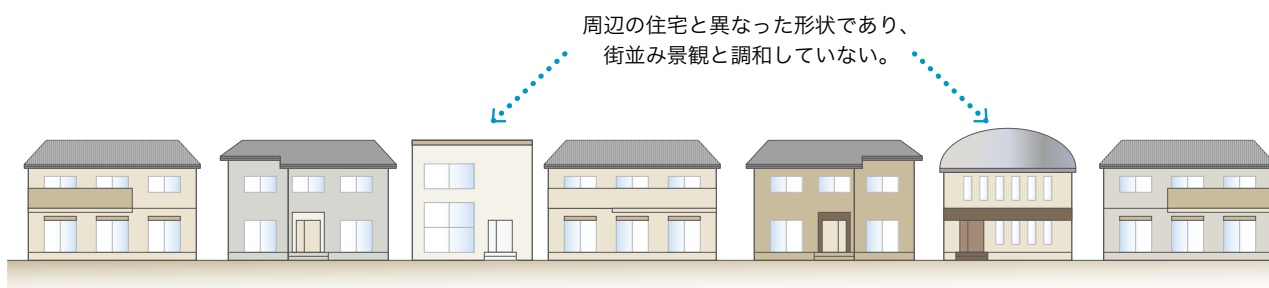
隣接する建築物と調和したデザインとすることで、街並み景観に配慮



建築物と類似の色彩を使用した例

【住宅地の景観配慮】

住宅地では、各住宅の個性を出していくことで、様々な表情を持った景観をつくることができます。しかし、周辺の住宅と異なった形状としてしまうと、街並みの調和が図られなくなり、街並みの統一感や連続性を欠いてしまいます。そのため、周辺の街並み景観に配慮した形態意匠の工夫が必要です。



周辺の住宅と異なった形状であり、街並み景観と調和していない。

⑥ 壁面分節化

景観計画における形態意匠の基準

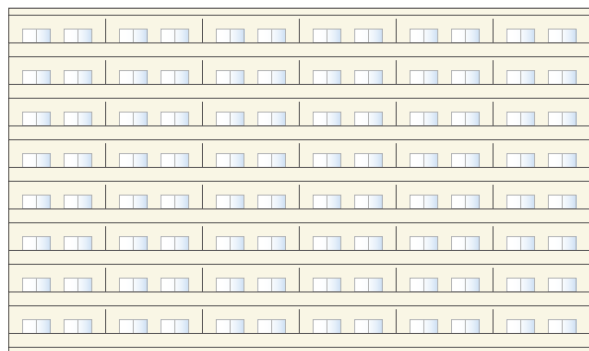
大規模壁面は、その圧迫感を軽減するため、壁面の分節化を図る。

全地区共通

■解説

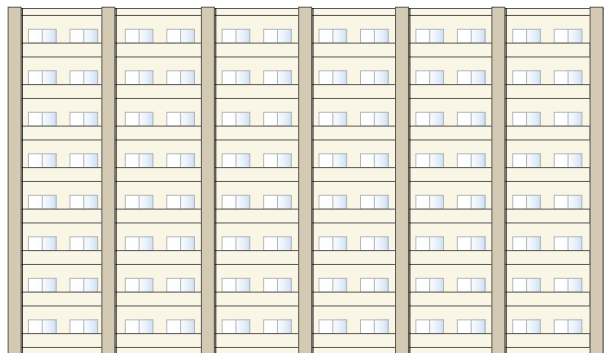
建築物の壁面が長大になると、単調さや圧迫感を与えてしまいます。壁面に表情をつけ、圧迫感を和らげるよう、壁面の分節化により、周辺景観との調和に配慮します。

長大で単調な壁面は、圧迫感を与え、表情のないファサードとなってしまふ。



壁面を分節化することで表情を持ったファサードがつくれ、圧迫感の軽減につながる。

＜配慮した例＞



＜壁面を分節化しデザインを工夫した例＞



壁面デザインの工夫による壁面分節化の例



壁面の色彩や素材の工夫の例

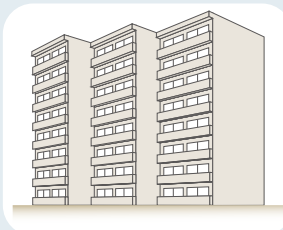


壁面に凹凸をつけた例



色彩と壁面の凹凸を組み合わせた例

建築物を雁行させることで、壁面に変化が生まれ、単調さや圧迫感の軽減につながります。



⑦ 塔屋、屋上設備

景観計画における形態意匠の基準

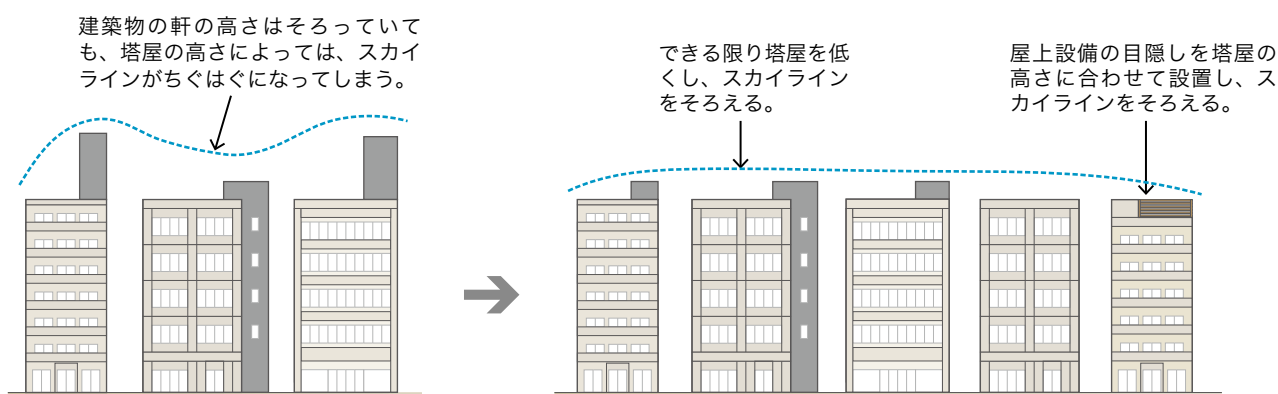
スカイラインの連続性に配慮し、塔屋や屋上設備は、その突出部分を最小限とし、建築物の主体部分と一体のデザインとする。

全地区共通

■解説

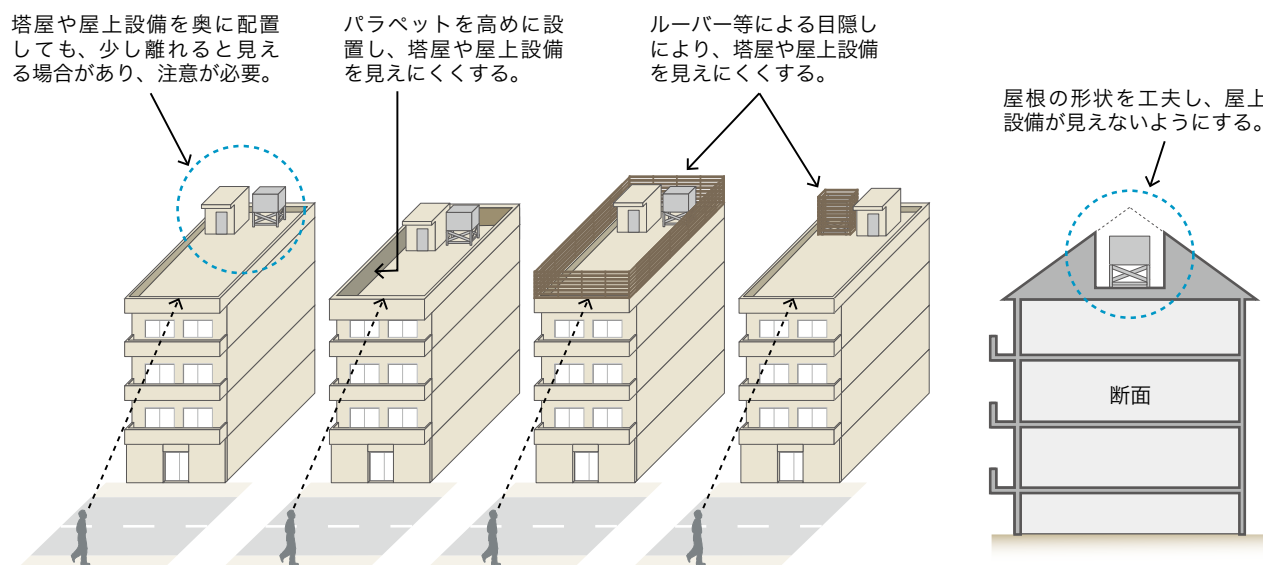
【スカイラインの連続性による景観配慮】

塔屋等が無秩序に設置されると、建築物等のスカイラインが乱れるおそれがあります。スカイラインがそろるように、塔屋等の高さをできる限り低く抑えることで、整った街並み景観をつくることができます。



【屋上設備の景観配慮】

屋上設備も景観を構成する一部であり、特に、建築物等のスカイラインに影響を与えます。また、屋上設備は様々な種類の設備を設置することで煩雑になりがちであり、目立ってしまうことがあります。そのため、屋上設備をできる限り低く抑えるとともに、建築物と一体化したデザインや目隠し、通りから見えない位置への配置等により、周辺景観との調和に配慮します。



⑧ 屋外階段

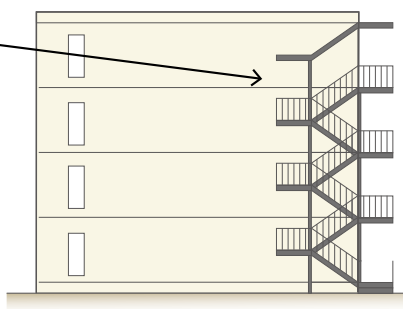
景観計画における形態意匠の基準

できるだけ視点場から直接見えない位置に設置するとともに、目立たない工夫をする。	①～⑬ 景観計画重点地区
できるだけ通りから直接見えない位置に設置するとともに、目立たない工夫をする。	⑭ 一般区域

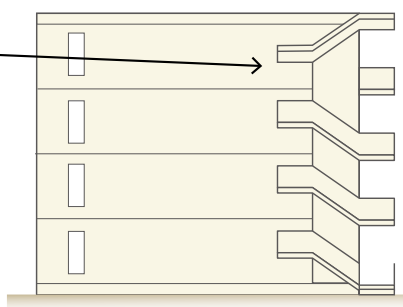
■解説

視点場や通りからの景観をすっきりと見せるため、屋外階段は、できる限り視点場から見えない位置に設置するとともに、ルーバー等による目隠しにより、周辺景観との調和に配慮します。

建築物から突出し、また、建築物と異なった構造とした屋外階段は、目立ってしまう。

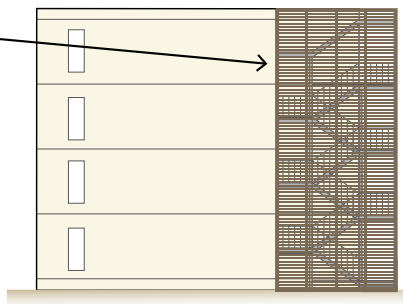
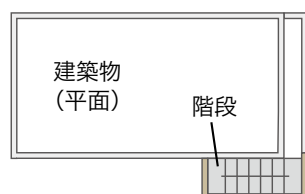


建築物と同じ色や構造にすることで、建築物と一体的に見え、屋外階段でも目立たなくなる。



建築物と同じ構造の屋外階段の例

建築物と異なる素材の場合は、目隠しをすることで、目立たなくなる。



ルーバーによる目隠しの例

屋外階段を建築物に組み込んで設置すると、目立たなくなる。

